

■教科目（科目担当者）一覧

科 目	学年	担 当 者	専任 非常勤
心理学	1年	森月 義雄	非常勤
社会学	1年	丸山 健、杉田 吉男	非常勤
化学、生物学	1年	宇都宮 森和	非常勤
英語 I	1年	嶋本 ローラ	非常勤
歯科衛生士概論	1年	川上 理永	専任
解剖学	1年	盛口 敬一	非常勤
歯牙解剖学	1年	丹羽 千春	非常勤
組織・発生学	1年	畑中 伸彦	非常勤
基礎実習（歯牙解剖実習）	1年	山本 司将 岸本 良、高木 亮輔	非常勤
生理学・基礎実習（生理実習）	1年	高崎 昭彦、鍵小野 美和	非常勤
病理学	1年	前田 初彦、加藤 裕美 杉田 好彦	非常勤
微生物学	1年	中根 智子、瀧北 靖代	非常勤
基礎実習（微生物実習）	1年	長谷川 義明	非常勤
衛生学・公衆衛生学	1年	新井 歌織	非常勤
栄養指導	1年	小島 千佳	非常勤
生化学	1年	安達 啓子	非常勤
保存修復学	1年	村田 公成、荒川 精一	非常勤
歯内療法学	1年	天野 一晴、渡邊 泰三	非常勤
歯周療法学	1年	神谷 英道、高須 英成	非常勤
歯科補綴学	1年	有馬 達也、宮地 秀憲 山本 司将、小松 尚孝	非常勤
矯正歯科学	1年	山口 英治、天野志乃布 志村 法子、土川 太一	非常勤
歯科予防処置 I	1年	前田 順子	専任
歯科診療補助 I	1年	長谷川 真未	専任
歯科材料	1年	永井 伸幸、加藤 賢吾 山口 紅子、伊奈 慶典 市野 英昭	非常勤
歯科保健指導 I	1年	川上 理永	専任
マナー実務	1年	福士 友美	非常勤
コンピュータ演習	1年	伊藤 辰己	非常勤

■教科目（科目担当者）一覧

科 目	学年	担 当 者	専任 非常勤
英語Ⅱ	2年	嶋本ローラ	非常勤
体育	2年	玉田 鷹士	非常勤
薬理学	2年	近藤 玲子	非常勤
社会福祉	2年	栞名 廉	非常勤
歯科臨床概論	2年	齋藤 輝海、青木 義彦 佐々木 惇、後藤 大輝	非常勤
口腔外科学	2年	兼子 隆次、中岡 俊貴 町田 純一郎	非常勤
歯科予防処置Ⅱ	2年	藤井 広美	専任
小児歯科	2年	榊原 章一、平山 美衣	非常勤
障害者歯科	2年	岡 義郎、今泉 三枝 図師 良枝	非常勤
歯科保健指導Ⅱ	2年	川上 理永、藤井 広美	専任
食育実習	2年	小島 千佳	非常勤
歯科診療補助Ⅱ（介護実習）	2年	右高 初江	非常勤
歯科診療補助Ⅱ （ホワイトニング）	2年	杉山 明聡	非常勤
看護法大意	2年	平下 祐梨子、竹下 裕子	非常勤
放射線	2年	清水 大行、新美 卓也 松本 祐樹、山本 翼	非常勤
医療保険	2年	柴田 芳紀、竹内 朗人 服部 彰	非常勤
ビジネスマナー	2年	福士 友美	非常勤
臨地実習	2年	臨床実習指導教員	非常勤

■教科目（科目担当者）一覧

科 目	学年	担 当 者	専任 非常勤
摂食・嚥下	3年	小牧 侑紀	非常勤
口腔衛生学・歯科衛生統計	3年	新井 歌織、伊藤 恭子 塚本 敬子	非常勤
高齢者歯科	3年	高濱 豊	非常勤
口腔ケア	3年	長谷川 真未	非常勤
歯科保健指導Ⅲ	3年	遠山 麻希子	専任 非常勤
医学概論	3年	丸山 健	非常勤
人間関係論	3年	森月 義雄	非常勤
教養科目（文章力講座）	3年	菅沼 健	非常勤
教養科目（絵手紙）	3年	岩田 多恵子	非常勤
教養科目（心理カウンセリング）	3年	堀場 英里名	非常勤
卒業研究	3年	教務	専任
総合学習	3年	教務	専任
臨地実習	3年	臨床実習指導教員	非常勤

実務経験のある教員等による授業科目 令和6年度

成績用科目分類名称	配当学年	科目名称	単位数	教員名	実務経験等について
基礎分野	1	心理学	2	森月 義雄	医療法人や短大等で臨床心理カウンセラーの経験（現役）を活かし、心理学の基礎知識、自己理解や他者理解を深めコミュニケーション能力の向上を目指し、脳科学の知識についても講義する。
基礎分野	1	英語 I	1	嶋本 ローラ	大手企業の英文チェックや翻訳を担当していた経験を活かし、ネイティブスピーカー派遣会社設立。ネイティブスピーカーならではの会話を中心とした授業構成で、音楽を聴いたり英語でゲームなどを行い英語に慣れ親しむことを中心に教育する。
専門基礎分野	1	歯牙解剖学	2	丹羽 千春	歯科医師として大学歯学部等で教鞭をとり、その経験を活かし口腔を中心とする解剖学的名称や基礎知識を講義する。
専門基礎分野	1	病理学	2	前田 初彦	歯科医師として大学歯学部で教鞭をとりその経験を活かし、病気や疾患の基本について学び、その診断方法や治療法あるいは予防法を講義する。
専門基礎分野	1	微生物学	2	中根 智子	歯科医師として大学歯学部で教鞭をとりその経験を活かし、病原性微生物の性質や疾病についてや医療現場による感染予防について講義する。
専門分野	1	歯科衛生士概論	2	川上 理永	歯科診療所の臨床現場での歯科衛生士、専門学校での教員経験（現役）を活かし、歯科衛生士の業務、歴史、法律、倫理、組織や役割について講義する。
専門分野	1	保存修復学	1	村田 公成	歯科診療所の臨床現場での歯科医師（現役）の経験を活かし、むし歯等による硬組織の欠損部の進行を阻止し、修復方法を講義する。
専門分野	1	歯内療法学	1	天野 一晴	歯科診療所の臨床現場での歯科医師（現役）の経験を活かし、歯髄疾患や根尖歯周病治療についてや臨床実習において治療の土台となる歯内療法を講義する。
専門分野	1	歯周療法学	2	神谷 英道	歯科診療所の臨床現場での歯科医師（現役）の経験を活かし、臨床経験を基に歯周病の予防と治療の基本的な知識及び技術について講義する。
専門分野	1	歯科補綴学	2	有馬 達也	歯科診療所の臨床現場での歯科医師（現役）の経験を活かし、歯科衛生士に関連している歯科補綴学を臨床に即した面から、補綴治療の基本的な知識について講義する。
専門分野	1	矯正歯科学	2	山口 英治	歯科診療所の臨床現場での歯科医師（現役）の経験を活かし、矯正歯科治療の概要、正常咬合と不正咬合など、臨床で歯科衛生士業務に必要な技術を講義する。
専門分野	1	歯科予防処置 I	3	前田 順子	歯科診療所の臨床現場での歯科衛生士、専門学校での教員経験（現役）を活かし、予防処置の基礎から専門的な知識・技術までの指導を行う。
専門分野	1	歯科保健指導 I	1	川上 理永	歯科診療所の臨床現場での歯科衛生士、専門学校での教員経験（現役）を活かし、健康や歯科医療に対する関心を持って歯科保健指導が行えるよう、基礎的な知識・技術を指導する。
専門分野	1	栄養指導	2	小島 千佳	管理栄養士の資格を有し、病院・歯科医では栄養指導・管理栄養士業を担当。講演や健康と食について健康教室を開く。いままでの経験を活かし、栄養指導の重要性、食事の重要性を講義する。

実務経験のある教員等による授業科目 令和6年度

成績用科目分類名称	配当学年	科目名称	単位数	教員名	実務経験等について
専門分野	1	歯科診療補助 I	3	長谷川 真未	歯科診療所の臨床現場での歯科衛生士としての経験を活かし、患者に対する業務と歯科診療の介添えについてを指導する。
専門分野	1	歯科材料	2	永井 伸幸	歯科診療所の臨床現場での歯科医師（現役）の経験を活かし、組成と口腔内環境における物質的性質や生物的性質ならびにこれらの性質に影響を及ぼす取り扱い方を講義する。
基礎分野	2	英語 II	1	嶋本 ローラ	大手企業の英文チェックや翻訳を担当していた経験を活かし、ネイティブスピーカー派遣会社設立。ネイティブスピーカーならではの会話を中心とした授業構成。英語 I で習った会話中心のスキルを活かし、コミュニケーションのための英語を中心に教育する。
基礎分野	2	体育	1	玉田 鷹士	大手スポーツジムにてグループエクササイズを担当の経験を活かし、ボールやナノチューブを使用した体力づくりを中心としたに実技指導を行う。体を動かすことでリフレッシュし、健康に不可欠ということを体感させる。
専門基礎分野	2	薬理学	2	近藤 玲子	薬剤師の資格を有し薬局に勤務（現役）、その経験を活かし、薬物の知識・作用・副作用について講義する。
専門分野	2	歯科臨床概論	2	齋藤 輝海	病院口腔外科の臨床現場での歯科医師（現役）経験を活かし、口腔機能の重要性や歯科臨床の一連の流れについて講義する。
専門分野	2	歯科予防処置 II	2	藤井 広美	歯科診療所の臨床現場での歯科衛生士、専門学校での教員経験（現役）を活かし、相互実習を通じ予防処置の専門的な技術を指導する。
専門分野	2	小児歯科	2	榊原 章一	歯科診療所の臨床現場での歯科医師（現役）の経験を活かし、成長過程である小児期の口腔領域について学び、問題点や予防・処置方法を講義する。
専門分野	2	障害者歯科	1	岡 義郎	歯科診療所の臨床現場での歯科医師（現役）の経験を活かし、障害の概念、歯科医療に必要な介助法ならびに歯科保健指導を講義する。
専門分野	2	歯科保健指導 II	1	川上 理永	歯科診療所の臨床現場での歯科衛生士、専門学校での教員経験（現役）を活かし、基礎的知識・技術を指導し、臨床および地域歯科保健活動において、専門的立場より支援できる能力が習得できるよう指導する。
専門分野	2	食育実習	2	小島 千佳	管理栄養士の資格を有し、栄養管理士会主催等の講演や健康と食について健康教室を開く。いままでの経験を活かし、食についての重要性や保健指導力を教える。
専門分野	2	看護法大意	1	平下 祐梨子	看護師免許と歯科衛生士免許を有する。それぞれの臨床実習経験があり、その経験を活かし看護の概念・技術・実務につて講義する。
専門分野	2	放射線	1	清水 大行	歯科診療所の臨床現場での歯科医師（現役）の経験を活かし、口内法エックス線撮影、パノラマエックス線撮影、放射線治療と口腔管理、歯科衛生士の役割について講義する。
専門分野	2	医療保険	1	柴田 芳紀	歯科診療所の臨床現場での歯科医師（現役）や歯科医師会社会保険部の職を歴任。その経験を活かし、健康保険診療上の必要事項を講義する。

実務経験のある教員等による授業科目 令和6年度

成績用科目分類名称	配当学年	科目名称	単位数	教員名	実務経験等について
専門基礎分野	3	摂食・嚥下	1	小牧 侑紀	大学病院の臨床現場での歯科衛生士（現役）の経験を活かし、歯科衛生士が摂食・嚥下障害のリハビリテーションを実践できるようにする為の知識・技術を講義する。
専門分野	3	高齢者歯科	1	高濱 豊	歯科医師として大学歯学部で教鞭をとりその経験を活かし、加齢による身体的・精神的変化と疾患、高齢者の特徴・接し方・医療と介護・歯科衛生過程について講義する。
専門分野	3	歯科保健指導Ⅲ	1	遠山 麻希子	歯科診療所の臨床現場での歯科衛生士、専門学校での教員経験（現役）を活かし、ライフステージごとの口腔保健管理論を講義し、実習を通じて実践力を指導する。
実務経験のある教員等による授業科目合計単位数			49		

■科目別授業計画表

科目名	英語Ⅱ	授業形態	演習
担当講師名	嶋本ローラ		
科目内容	英語Ⅰで取得出来た英会話スキルを発展して、コミュニケーションのための英語スキルを身につける。		
到達目標	クリニックをおとずれる外国人などと会話ができるようになること。		
授業時間	総時間数 <u>30</u> 時間 [90分授業を、週 <u>1</u> 回で 15 週実施 総授業回数 15]		
単位数	<u>1</u> 単位		
使用教材	Smart Choice Student Book 1B(Oxford)		
参考図書	英和辞典の持参を強くお勧めします。		
授業内容	<p>1回目：お買い物 Unit 7</p> <hr/> <p>2回目：形容詞 Unit 8</p> <hr/> <p>3回目：旅行英語 Unit 9</p> <hr/> <p>4回目：旅行英語 Unit 9つづき と 補助教材（プリント）</p> <hr/> <p>5回目：補助教材（プリント）</p> <hr/> <p>6回目：道案内 Unit10</p> <hr/> <p>7回目：テキストP.112～113 プリント</p> <hr/> <p>8回目：語彙をふやすゲーム</p> <hr/> <p>9回目： Good times 休暇の話／ペアワーク テキストUnit11</p> <hr/> <p>10回目：問診表のやさしい英語（プリント）</p> <hr/> <p>11回目：音楽でリスニング クイズ、歯の動画</p> <hr/> <p>12回目：未来の話 テキストUnit12</p> <hr/> <p>13回目：一日日記（テキストP.136参照）</p> <hr/> <p>14回目：復習と口頭テスト（interviews）</p> <hr/> <p>15回目：復習と口頭テスト（interviews）</p>		
評価方法基準	60%筆記試験、40%口頭テスト		

■科目別授業計画表

科目名	体育	授業形態	実技
担当講師名	玉田 鷹士		
科目内容	全身をくまなく動かして、体力づくり・身体・心のリフレッシュを目的に運動を実施。		
到達目標	基礎体力づくり、肩こり・腰痛予防エクササイズの理解。		
授業時間	総時間数 <u>46</u> 時間 [90分授業を、週 <u>1</u> 回で 23 週実施 総授業回数 23]		
単位数	<u>1</u> 単位		
使用教材			
使用機器	CDデッキ、スモールボール、チューブ		
授業内容	<p>1回目：体力、健康チェック（ガイダンス）</p> <hr/> <p>2回目：体力測定 ①</p> <hr/> <p>3回目：体力測定 ②</p> <hr/> <p>4回目：ウォーキング、軽運動</p> <hr/> <p>5回目：〃</p> <hr/> <p>6回目：〃</p> <hr/> <p>7回目：ウォーキング、リフレッシュ運動（エクササイズ）</p> <hr/> <p>8回目：〃</p> <hr/> <p>9回目：〃</p> <hr/> <p>10回目：〃</p> <hr/> <p>11回目：〃</p> <hr/> <p>12回目：ウォーキング、レクリエーション、軽運動</p> <hr/> <p>13回目：〃</p> <hr/> <p>14回目：〃</p> <hr/> <p>15回目：〃</p>		
評価方法基準	出席（25%）、実習態度（取り組む姿勢）（25%）、体力維持・向上度合い（50%）で評価		

■科目別授業計画表

科目名	薬理学	授業形態	講義
担当講師名	近藤 玲子		
科目内容	薬の生体に対する作用について、どこに（作用部位）、どの様に（作用機序）、どの様な効果（薬理作用）を現わすか、また、使用方法（適用経路、連用・併用）による効果の現われ方や副作用について学ぶ。薬理学の知識は日常生活においても役に立ち、国家試験も決して難問ではない。楽しく学びましょう。		
到達目標	現場で対応できる薬理学の基礎知識を習得する。		
授業時間	総時間数 <u>30</u> 時間 [90分授業を、週 <u>1</u> 回で 15 週実施 総授業回数 15]		
単位数	<u>2</u> 単位		
使用教材	歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学（医歯薬）		
授業内容	<p>1回目： I編総論 1章 薬物の作用</p> <hr/> <p>2回目： 2章 薬物動態 3章 薬物の適用方法の種類と特徴</p> <hr/> <p>3回目： 4～6章 薬物の副作用、適用する際の注意</p> <hr/> <p>4回目： 7～8章 薬物の取り扱い、法律</p> <hr/> <p>5回目： II編各論 1章 ビタミンとホルモン</p> <hr/> <p>6回目： 2章 末梢神経系に作用する薬物</p> <hr/> <p>7回目： 3章 中枢神経系に作用する薬物</p> <hr/> <p>8回目： 4～8章 循環器系、腎臓・呼吸器系、消化器系、血液に作用する薬物</p> <hr/> <p>9回目： 9章 免疫と薬 10章 悪性腫瘍と薬</p> <hr/> <p>10回目： 11章 代謝性疾患治療薬 12章 炎症と薬</p> <hr/> <p>11回目： 13章 痛みと薬 14章 局所麻酔薬</p> <hr/> <p>12回目： 15章 抗感染症薬 16章 消毒薬</p> <hr/> <p>13回目： 17～20章 歯科疾患の薬</p> <hr/> <p>14回目： 21章 漢方医学と薬物 過去問</p> <hr/> <p>15回目： 総復習 テスト範囲</p>		
評価方法基準	筆記試験で評価（100%）		

■科目別授業計画表

科目名	社会福祉	授業形態		講義	
担当講師名	栗名 廉				
科目内容	①社会福祉に関する理論、制度、政策などの基本的な事柄を理解する。 ②児童、高齢者、障害者福祉の現状と課題を知り、今後の社会福祉の在り方について考察する。				
到達目標	日本の社会福祉制度や社会福祉用語を関連づけたり類別したりして説明できる。				
授業時間	総時間数 <u>30</u> 時間 [90分授業を、週 <u>1</u> 回で 15 週実施 総授業回数 15]				
単位数	<u>2</u> 単位				
使用教材	新 社会福祉とは何か（中央法規）、授業で提示する資料等				
授業内容	<p>1 回目：社会福祉の概念 ①社会福祉とは何か ②社会福祉を支える原理 ③今必要な社会福祉</p> <p>2 回目：日本の社会保障制度 ①社会福祉の位置づけ ②社会保障の変遷 ③社会保障の仕組み ④支える人々</p> <p>3 回目：社会福祉の歴史 ①古代から近代 ②明治時代 ③大正から戦前 ④戦後社会福祉事業</p> <p>4 回目：社会福祉の法と行政・財政 ①社会福祉法制 ②社会福祉の行政機関 ③社会福祉の財政</p> <p>5 回目：社会福祉法に規定される基本的事項 ①社会福祉法 ②社会福祉法の内容</p> <p>6 回目：社会福祉に携わる専門職 ①国家資格と任用資格 ②国家資格の種類 ③社会福祉の現場で働く人</p> <p>7 回目：生活保護Ⅰ ①貧困について ②公的扶助 ③生活保護制度</p> <p>8 回目：生活保護Ⅱ ①生活保護申請の順序 ②生活保護の実施 ③生活保護制度をめぐる課題</p> <p>9 回目：児童福祉Ⅰ ①子供の権利条約 ②日本における児童福祉 ③少子化進行と課題 ④待機児童ゼロ</p> <p>10 回目：児童福祉Ⅱ ①児童福祉と法律 ②児童福祉の現状 ③要保護児童 ④児童虐待 ⑤相談機関 ⑥課題</p> <p>11 回目：障害者福祉Ⅰ ①障害のとらえ方 ②差別解消法と権利条約 ③障害者の概況 ④障害者の生活保障</p> <p>12 回目：障害者福祉Ⅱ ①障害者保健福祉政策 ②障害者の経済保障 ③障害者の一般就労 ④障害者の福祉的就労</p> <p>13 回目：高齢社会と社会福祉Ⅰ ①高齢者の理念 ②高齢者の生活課題</p> <p>14 回目：高齢社会と社会福祉Ⅱ ①高齢者介護 ②高齢者の住まいと介護の提供 ③地域包括ケアシステム</p> <p>15 回目：地域福祉と共生社会 ①地域福祉推進 ②地域共生社会 学習のまとめ</p>				
評価方法基準	筆記試験で評価（100%）				

■科目別授業計画表

科目名	歯科臨床概論	授業形態	講義
担当講師名	齋藤 輝海、青木 義彦、佐々木 惇、後藤 大輝		
科目内容	口腔は、呼吸気道の入り口であると同時に、栄養摂取の第一相として重要である。この口腔の機能である、物を味わう、会話を楽しむ、個性や審美性といった特性を良く理解すると共に、これらの機能、形態を損ねる疾患群を学ばれたい。		
到達目標	歯科全般についての概要を理解する。		
授業時間	総時間数 <u>30</u> 時間 [90分授業を、週 <u>1</u> 回で 15 週実施 総授業回数 15]		
単位数	<u>2</u> 単位		
使用教材	歯科衛生士のための歯科臨床概論 第2版 (医歯薬)		
参考図書	歯科衛生士臨床歯科医学大要 (クインテッセンス) 歯科医学総論マニュアル (南山堂)		
授業内容	<p>1回目：Ⅰ編 1章 歯科診療とは</p> <hr/> <p>2回目：Ⅰ編 2章 歯科診療所 Ⅰ編 3章 歯科診療所における業務</p> <hr/> <p>3回目：Ⅱ編 1章 ライフステージと歯科診療 Ⅱ編 2章1 診査・検査・前処置</p> <hr/> <p>4回目：Ⅱ編 2章2 小児歯科</p> <hr/> <p>5回目：Ⅱ編 2章3 歯科矯正</p> <hr/> <p>6回目：Ⅱ編 2章4 口腔外科① (炎症、外傷)</p> <hr/> <p>7回目：Ⅱ編 2章5 歯科保存</p> <hr/> <p>8回目：Ⅱ編 2章6 歯周治療</p> <hr/> <p>9回目：Ⅱ編 2章7 歯科補綴</p> <hr/> <p>10回目：Ⅱ編 2章4 口腔外科② (嚢胞、奇形)</p> <hr/> <p>11回目：Ⅱ編 2章3 感染管理、口腔外科処置</p> <hr/> <p>12回目：Ⅱ編 2章4 口腔外科③ (腫瘍、唾液腺)</p> <hr/> <p>13回目：Ⅱ編 2章8 障害者歯科・高齢者歯科、摂食嚥下障害</p> <hr/> <p>14回目：Ⅱ編 2章8 全身疾患、周術期の対応、訪問歯科診療</p> <hr/> <p>15回目：解説・まとめ</p>		
評価方法基準	筆記試験で評価 (100%)		

■科目別授業計画表

科目名	口腔外科学	授業形態	講義
担当講師名	兼子 隆次、中岡 俊貴、町田 純一郎		
科目内容	口腔外科学は、口腔領域の疾患、すなわち、諸器官の先天性な異常、変形及び腫瘍（腫れもの）、炎症、外傷、顎関節等に対して正しく診断し処置を施行することを学びます。		
到達目標	口腔外科学の基礎的知識を習得し、臨床における必要事項の基本を理解する。		
授業時間	総時間数 <u>32</u> 時間 [90分授業を、週 <u>2</u> 回で 8 週実施 総授業回数 16]		
単位数	<u>2</u> 単位		
使用教材	歯科衛生学シリーズ 口腔外科・歯科麻酔（医歯薬）		
参考図書	カラーアトラス口腔外科の臨床（医歯薬）、口腔外科学（口腔保健協会）		
授業内容	<p>1回目：I編 1章 口腔外科の概要</p> <hr/> <p>2回目： 8章 唾液腺疾患 9章 神経疾患</p> <hr/> <p>3回目：I編 2章 先天・発育異常</p> <hr/> <p>4回目： 3章 損傷および機能障害</p> <hr/> <p>5回目：I編 10章 診療の実際</p> <hr/> <p>6回目： //</p> <hr/> <p>7回目：I編 4章 口腔粘膜の病変</p> <hr/> <p>8回目： 5章 化膿性炎症性疾患</p> <hr/> <p>9回目：II編 1章 歯科麻酔と患者管理 2章 局所麻酔</p> <hr/> <p>10回目： 3章 精神鎮静法 4章 全身麻酔</p> <hr/> <p>11回目：I編 6章 嚢胞性疾患</p> <hr/> <p>12回目： 7章 腫瘍および類似疾患</p> <hr/> <p>13回目：III編 1章 検査・診断時の業務</p> <hr/> <p>14回目： 2章 外科麻酔処置の業務</p> <hr/> <p>15回目：II編 5章 救急蘇生法</p> <hr/> <p>16回目：III編 3章 歯科衛生士が行うケアと管理</p>		
評価方法基準	筆記試験にて評価（100%）		

■科目別授業計画表

科目名	歯科予防処置Ⅱ	授業形態	講義・実習
担当教員名	藤井 広美		
科目内容	口腔疾患を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために専門的な知識、技術および態度を習得する。さらに相互実習を通して、予防処置の実践力を身につける。		
到達目標	口腔疾患予防のための具体的な方法を学び、実践するための基礎能力を身につける。		
授業時間	総時間数 90 時間 [90分授業を、週 2~4 回で 23 週実施 総授業回数 45]		
単位数	2 単位		
使用教材	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 (医歯薬)		
参考図書	最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 (医歯薬) 歯科衛生士のための齲蝕予防処置法 (医歯薬) 最新歯科衛生士教本 歯周疾患歯周治療 (医歯薬)		
授業内容	<p>1 回目：Ⅲ編3章 歯科衛生介入のための歯科予防処置 フッ化物の応用</p> <p>2 回目： 1. フッ化物の基礎知識</p> <p>3 回目： 2. フッ化物歯面塗布法 基礎実習</p> <p>4 回目： //</p> <p>5 回目： フッ化物歯面塗布法 綿球法 相互実習</p> <p>6 回目： //</p> <p>7 回目： フッ化物歯面塗布法 トレー法 相互実習</p> <p>8 回目： //</p> <p>9 回目： 5. フッ化物の毒性と急性中毒への対応</p> <p>10 回目： 6. ライフステージ別のフッ化物局所応用</p> <p>11 回目： 3. フッ化物洗口法 基礎実習</p> <p>12 回目： 4. フッ化物配合歯磨剤</p> <p>13 回目： 小窩裂溝填塞法 (フィッシャーシーラント) 基礎実習 (マネキン)</p> <p>14 回目： //</p> <p>15 回目： 小窩裂溝填塞法 (フィッシャーシーラント) 相互実習</p>		
評価方法基準	筆記試験 (前期・後期・小テスト) (60%)、実技検定 (30%)、授業態度 (10%) で評価		

■科目別授業計画表

授 業 内 容		
16回目：	小窩裂溝填塞法（フィッシャーシーラント）	相互実習
17回目：	3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	
18回目：	パワー（機械的）スケーラー	基礎実習（マネキン）
19回目：	超音波スケーラー・エアスケーラー	相互実習 1
20回目：	〃	
21回目：	超音波スケーラー・エアスケーラー	相互実習 2
22回目：	〃	
23回目：	超音波スケーラー・エアスケーラー	相互実習 3
24回目：	〃	
25回目：	3章 歯科衛生介入としての歯科予防処置	スケーリング・ルートプレーニング
26回目：	キュレット型スケーラー	
27回目：	キュレット型スケーラー	基礎実習（マネキン） 1
28回目：	〃	
29回目：	キュレット型スケーラー	基礎実習（マネキン） 2
30回目：	〃	
31回目：	キュレットの操作	実技検定（マネキン）
32回目：	〃	
33回目：	キュレットの操作	相互実習 1
34回目：	〃	
35回目：	キュレットの操作	相互実習 2
36回目：	〃	
37回目：	キュレットの操作	相互実習 3
38回目：	〃	
39回目：	キュレットの操作	相互実習 4
40回目：	〃	

■科目別授業計画表

授 業 内 容

4 1 回目： 2章 歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理 検査

4 2 回目： 歯周組織検査 相互実習

4 3 回目： 3章 歯科衛生介入として歯科予防処置 シャープニング

4 4 回目： シャープニング基礎実習

4 5 回目： まとめ

■科目別授業計画表

科目名	小児歯科	授業形態		講義	
担当講師名	榊原 章一、平山 美衣				
科目内容	小児歯科は、日々、成長過程にある子どもを対象とする歯科医学の中の一分野である。この成長過程にある子どもの口腔領域の正常な発育を図り、それを障害する疾患や異常について、予防と治療を行う。				
到達目標	小児歯科の基本的知識を習得するとともに、小児歯科疾患の予防・治療における歯科衛生士の役割を理解する。				
授業時間	総時間数 <u>30</u> 時間 [90分授業を、週 <u>2</u> 回で 8 週実施 総授業回数 15]				
単位数	<u>2</u> 単位				
使用教材	歯科衛生学シリーズ 小児歯科学 (医歯薬)				
授業内容	<p>1回目：Ⅰ編 小児歯科診療の基礎知識 1章 小児歯科学概論 2章 心身の発育</p> <hr/> <p>2回目： 3章 小児の生理的特徴 4章 顔面頭蓋の発育</p> <hr/> <p>3回目： 5章 歯の発育とその異常</p> <hr/> <p>4回目： //</p> <hr/> <p>5回目： 6章 歯列・咬合の発育と異常</p> <hr/> <p>6回目： 7章 小児の歯科疾患</p> <hr/> <p>7回目：Ⅱ編 小児歯科診療 1章 小児期の特徴と歯科的問題点</p> <hr/> <p>8回目： 2章 小児歯科における診療体系</p> <hr/> <p>9回目： 3章 小児歯科における患者との対応法 1～4</p> <hr/> <p>10回目： //</p> <hr/> <p>11回目： //</p> <hr/> <p>12回目： //</p> <hr/> <p>13回目： //</p> <hr/> <p>14回目：Ⅲ編 2章 う蝕予防</p> <hr/> <p>15回目： 4章 小児の口腔保健管理</p>				
評価方法基準	筆記試験で評価 (100%)				

■科目別授業計画表

科目名	障害者歯科	授業形態	講義
担当講師名	岡 義郎、今泉 三枝、函師 良枝		
科目内容	障害を取り巻く環境や障害者の心身の特徴を理解したうえで、障害者歯科診療の介助ならびに歯科保健指導に必要な基本的な事項を学ぶ。		
到達目標	障害者歯科の基本的知識を習得するとともに、治療における歯科衛生士の役割を理解する。		
授業時間	総時間数 16 時間 [90分授業を、週 2 回で 4 週実施 総授業回数 8]		
単位数	1 単位		
使用教材	歯科衛生学シリーズ 障害者歯科学 (医歯薬)		
参考図書	歯科衛生士のための障害者歯科 (医歯薬出版) スペシャルニーズデンティストリー (医歯薬出版)		
授業内容	<p>1回目：障害者歯科概論 1. 障害の概念 2. 障害者歯科の特質 他</p> <hr/> <p>2回目：障害の種類（1） 1. 精神遅滞 2. ダウン症候群 3. 自閉症</p> <hr/> <p>3回目：障害の種類（2） 1. 脳性麻痺 2. 筋ジストロフィー 3. てんかん 4. 重症心身障害</p> <hr/> <p>4回目：行動調整 1. 行動調整法とは 2. 行動変容法 3. 行動変容の技法 他</p> <hr/> <p>5回目：障害の種類の復習 まとめ ・ 摂食障害への対応</p> <hr/> <p>6回目：摂食嚥下障害とは ・ 摂食障害への対応(小児期)</p> <hr/> <p>7回目：障害者歯科における歯科衛生士の役割 障害者の歯科診療とその補助 障害者の口腔保健管理（1） 脳性麻痺・重症心身障害児の口腔保健支援</p> <hr/> <p>8回目：障害者の口腔保健管理（2） 発達障害児・者の口腔保健支援</p> <hr/> <p>回目：</p> <hr/> <p>回目：</p> <hr/> <p>回目：</p> <hr/> <p>回目：</p> <hr/> <p>回目：</p> <hr/> <p>回目：</p>		
評価方法基準	筆記試験で評価（100%）		

■科目別授業計画表

科目名	歯科保健指導Ⅱ	授業形態	講義・実習
担当教員名	川上 理永、藤井 広美		
科目内容	小集団指導の伝達方法や媒体づくりを通し、地域歯科保健活動について学ぶ。 対象者（患者）の問題を科学的な思考をもって解決する「歯科衛生過程」の基本 と考え方を学ぶ。		
到達目標	地域歯科保健活動において対象者にとって必要な援助法を学び、口腔衛生指導を 実践するための基礎的能力を身につける。歯科衛生過程の進め方について理解し 継続的指導に関する知識と技術を身につける。		
授業時間	総時間数 <u>46</u> 時間 [90分授業を、週 <u>2</u> 回で 13 週実施 総授業回数 23]		
単位数	<u>1</u> 単位		
使用教材	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論（医歯薬）		
参考図書	歯科衛生学シリーズ 保健生態学（医歯薬）		
授業内容	<p>1 回目： 3 章 歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理</p> <p>2 回目： 分析のためのデータ う蝕に関する検査（カリエスリスク・テスト）</p> <p>3 回目： ブラッシング指導モデル実習（1、2 年合同保健指導準備）</p> <p>4 回目： //</p> <p>5 回目： ブラッシング指導モデル実習（1、2 年合同保健指導）</p> <p>6 回目： //</p> <p>7 回目： 1 章 歯科衛生過程の進め方 歯科衛生過程の概要</p> <p>8 回目： 歯科衛生過程の各構成要素 1. 歯科衛生アセスメント //</p> <p>9 回目： 歯科衛生過程の各構成要素 2. 歯科衛生診断</p> <p>10 回目： //</p> <p>11 回目： 歯科衛生過程の各構成要素 3. 歯科衛生計画</p> <p>12 回目： //</p> <p>13 回目： 歯科衛生過程の各構成要素 4. 歯科衛生介入 5. 評価 6. 記録</p>		
評価方法基準	前期：筆記試験（40%）・歯科衛生過程（40%）、後期：媒体作成時の作品、 協力度、発表等（20%）で総合的に評価		

■科目別授業計画表

科 目 名	食育実習	授業形態	講義・実習
担 当 講 師 名	小島 千佳		
科 目 内 容	食物の知識と「食べ方」を通して健全な心身を養い、豊かな人間性を育む。口腔保健の専門家として、「食」に関する知識を習得し、保健指導力を身につける。		
到 達 目 標	日本食育インストラクター3級を取得する。		
授 業 時 間	総時間数 90 時間 [90分授業を、週 2 回で23週実施 総授業回数45]		
単 位 数	2 単位		
使 用 教 材	「何を食べる？誰と食べる？どう食べる？」（社団法人 全国調理師養成施設協会） 「糖尿病」（社会保険出版社）		
使 用 機 器	1回目のみパソコン・プロジェクター		
授 業 内 容	1回目：食育総論 「食」に関するアンケート(前) *実習なし		
	2回目：おいしいのひみつ 料理の基本		
	3回目： //		
	4回目：朝食の必要性 朝食メニュー		
	5回目： //		
	6回目：正しい食生活 バランス食		
	7回目： //		
	8回目：食事のマナー 和の食卓		
	9回目： //		
	10回目：日本の食糧事情 米料理		
	11回目： //		
	12回目：地産地消と食材の旬 地元の食材を使って（1）		
	13回目： //		
	14回目：自分でできるSDGs エコクッキング		
	15回目： //		
評 価 方 法 基 準	自由献立実習（50%）、平常の授業・実習態度（25%）、テーマについての感想（25%）で総合的に評価		

■科目別授業計画表

授 業 内 容	
16回目：食品表示と食中毒予防	地元の食材を使って（2）
17回目：	〃
18回目：乳児期・幼児期の食生活	親子で作る幼児食
19回目：	〃
20回目：学童期の食生活	自分で作る休日のランチ
21回目：	〃
22回目：思春期の食生活	鉄骨メニュー
23回目：	〃
24回目：妊娠期・授乳期の食生活	暑さに負けず食欲UP
25回目：	〃
26回目：高齢期の食生活	やわらか食の体験
27回目：	〃
28回目：咀嚼を考える	かみかみメニュー
29回目：	〃
30回目：おやつについて考える	甘味をおさえた手作りおやつ
31回目：	〃
32回目：生活習慣病予防を考える	ダイエットメニュー
33回目：	〃
34回目：自由献立実習準備（1）	薄味でもおいしい減塩メニュー
35回目：	〃
36回目：自由献立実習準備（2）	秋の行楽弁当
37回目：	〃
38回目：自由献立実習準備（3）	パーティーメニュー
39回目：	〃
40回目：行事食	正月料理

■科目別授業計画表

科目名	看護法大意	授業形態	講義
担当講師名	平下 祐梨子、竹下 裕子		
科目内容	看護の概念、歯科衛生士に必要な基本的な看護技術や看護実務について学ぶ。		
到達目標	歯科衛生士として必要な看護の知識・技能を身につける。		
授業時間	総時間数 <u>16</u> 時間 [90分授業を、週 <u>1</u> 回で 8 週実施 総授業回数 8]		
単位数	<u>1</u> 単位		
使用教材	歯科衛生士のための看護法大意 第4版 (医歯薬)		
<p>授業内容</p> <p>1回目：看護の概念</p> <hr/> <p>2回目：看護技術（バイタルサインの病態と生理・リスク管理）</p> <hr/> <p>3回目：看護技術（バイタルサイン実習）</p> <hr/> <p>4回目：看護技術（患者への支援・安全と安楽・摂食）</p> <hr/> <p>5回目：救急時の看護 終末期の看護 緩和ケア</p> <hr/> <p>6回目：地域医療活動における歯科衛生士の役割 訪問歯科の実際</p> <hr/> <p>7回目：看護師による現場の話 バイタルサインテスト</p> <hr/> <p>8回目：テスト解説、質疑応答</p> <hr/> <p>回目：</p> <hr/> <p>回目：</p> <hr/> <p>回目：</p> <hr/> <p>回目：</p> <hr/> <p>回目：</p> <hr/> <p>回目：</p> <hr/>			
評価方法基準	筆記試験で評価（100%）		

■科目別授業計画表

科目名	歯科診療補助Ⅱ(介護実習)	授業形態	講義・実習
担当講師名	右高 初江		
科目内容	歯科衛生士として必要な介護の知識を理論と実践を通して学ぶ。特に高齢者、障がい者・児に対する歯科診療補助に必要とされる介護技術は、健常者以上に技術を要する。患者だけではなく、一緒に働くスタッフにも指導ができる技術を習得する。		
到達目標	歯科衛生士として必要な介護の知識・技能を身につける。		
授業時間	総時間数 30 時間 [90分授業を、週 2 回で 8 週実施 総授業回数 16]		
単位数	1 単位 (ホワイトニング実習を含めて)		
使用教材	プリントを配布		
参考図書	講義のなかで適宜、紹介する。		
授業内容	<p>1回目： 介護とは ー生活支援技術を学ぶー</p> <p>2回目： 生活支援の対象者、コミュニケーション技術</p> <p>3回目： ベットメイキング、ボディメカニクス、腰痛予防</p> <p>4回目： 体位変換</p> <p>5回目： 移動の介助① 車いす、杖</p> <p>6回目： 移動の介助② 手引き歩行（高齢者・視覚障がい者）、チェア誘導</p> <p>7回目： 食事の介助① 様々な食事形態</p> <p>8回目： 食事の介助② 食事支援技術</p> <p>9回目： 排泄の介助① 排泄のメカニズム</p> <p>10回目： 排泄の介助② トイレ、ポータブルトイレ、おむつ</p> <p>11回目： 認知症の介護① 認知症の理解</p> <p>12回目： 認知症の介護② 認知症への対応</p> <p>13回目： ターミナルケア</p> <p>14回目： 清潔の介助 衣類の着脱・足浴</p> <p>15、16回目： 緊急時の対応、技術のまとめ</p>		
評価方法基準	授業態度10点、筆記試験40点、実技テスト40点、小テスト・レポート10点		

■科目別授業計画表

科目名	医療保険	授業形態	講義
担当講師名	柴田 芳紀、竹内 朗人、服部 彰		
科目内容	歯科保険診療に沿った歯の基礎知識の総合学習とともに、医療保険の基礎知識や用語、保険診療上の歯科衛生士の職務、診療報酬請求事務など、歯科保険診療上の必要事項とオンラインシステム等の理解と習得を目的とする。		
到達目標	医療保険の基礎知識や用語、保険診療上の歯科衛生士の職務、診療報酬請求事務などの概要について理解する。		
授業時間	総時間数 <u>16</u> 時間 [90分授業を、週 <u>1</u> 回で 8 週実施 総授業回数 8]		
単位数	<u>1</u> 単位		
使用教材	歯科保険請求マニュアル 令和6年度版 歯の知識と請求の実務 (医歯薬)		
授業内容	<p>1回目：歯の基礎知識 ・歯の知識、初期う蝕の治療、痛くなった歯の治療</p> <hr/> <p>2回目：歯の基礎知識 ・感染根管治療、X線撮影、麻酔</p> <hr/> <p>3回目：歯の基礎知識 ・歯周治療、抜歯と手術、歯冠修復と欠損補綴</p> <hr/> <p>4回目：保険の基礎知識 ・レセプトと保険診察の仕組み（レセプト、カルテ使用）他</p> <hr/> <p>5回目：保険の基礎知識 ・充填、歯冠修復、歯周治療 他（レセプト、カルテ使用）</p> <hr/> <p>6回目：保険の基礎知識 ・歯科衛生実地指導、レセプトオンラインシステム・オンライン資格確認システム</p> <hr/> <p>7回目：保険の基礎知識 ・保険の種類 用語 （カルテ及びレセプトでの略称）</p> <hr/> <p>8回目：解説・まとめ</p> <hr/> <p>回目：</p> <hr/> <p>回目：</p> <hr/> <p>回目：</p> <hr/> <p>回目：</p> <hr/> <p>回目：</p> <hr/> <p>回目：</p> <hr/> <p>回目：</p>		
評価方法基準	筆記試験で評価（100%）		

■科目別授業計画表

科目名	ビジネスマナー	授業形態	演習
担当講師名	福士 友美		
科目内容	<p>ビジネスマナーは常に個人の資質が問われる大切な項目です。 第一印象が良いとか人柄が良いといわれた人と、そうでない人とは自ずと人間関係の広がりが変わってきます。本講座では正しいビジネスマナーを学び、信頼される社会人へと成長することを目的としています。</p>		
到達目標	<p>身だしなみや敬語等のマナーを理解する。 信頼される社会人としての基礎を身につける。</p>		
授業時間	総時間数 30 時間 [90分授業を、週 1 回で 15 週実施 総授業回数 15]		
単位数	1 単位		
使用教材	ビジネス実務マナー検定受験ガイド3級		
参考図書	講師編集プリント		
授業内容	<p>1 回目： 資質① 働くとは何か？ 期待役割と創造役割</p> <p>2 回目： // ② 仕事を確実に実行するための判断力・行動力・表現力</p> <p>3 回目： // ③ 積極性・合理性・効率性について</p> <p>4 回目： 職務知識① 一般的な組織の機能と必要性</p> <p>5 回目： // ② 組織の社会的責任</p> <p>6 回目： マナー接遇① 職場での人間関係の必要性</p> <p>7 回目： // ② 就業規則とマナー</p> <p>8 回目： // ③ 場面に応じた各種マナー</p> <p>9 回目： // ④ 言葉使いと敬語表現</p> <p>10 回目： 交際の業務 慶弔のマナー</p> <p>11 回目： 技能① 情報の収集とファイリング</p> <p>12 回目： // ② 文書のマナー</p> <p>13 回目： // ③ 会議のマナー</p> <p>14 回目： まとめ 検定問題演習</p> <p>15 回目： 試験解説</p>		
評価方法基準	筆記試験で評価 (100%)		

